



野菜茶業研究所ニュース

No.2 2001.10

CONTENTS

研究業績及び広報 平成12年度 (200.4 ~ 2001.3)

持続可能な養液栽培システム

窒素成分を毎日適量施用し、成分バランスが崩れない循環型の養液栽培システムを開発した。この方法では、窒素成分は施用後2時間以内に全量トマトに吸収され（肥料効率は100%）、養液中に窒素は残存しない。

■技術の特徴

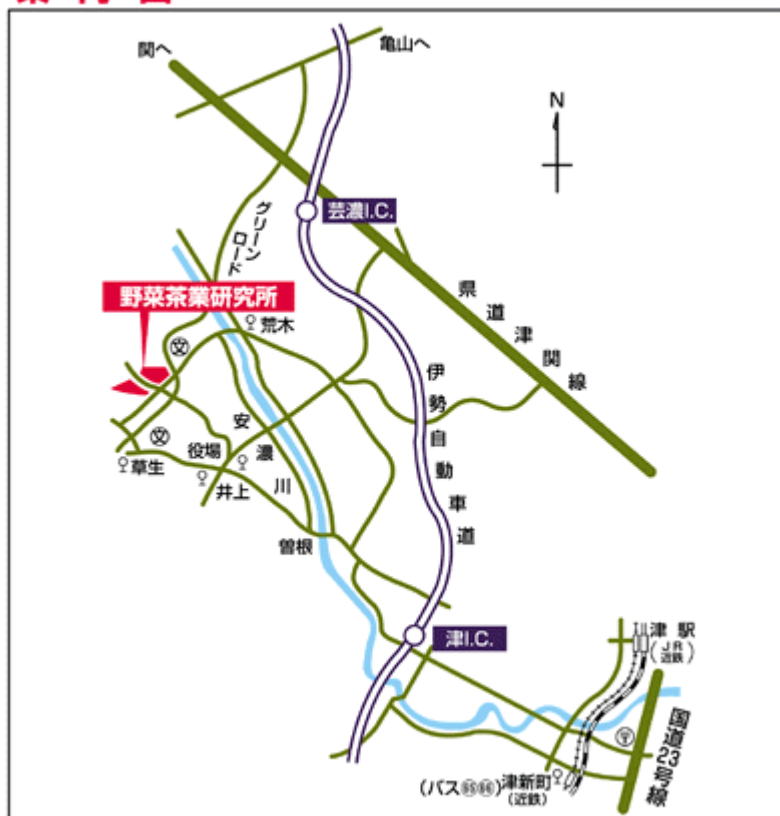
- 湛液型水耕方式で、栽培ベット、培養液タンク、循環装置とから構成される。
- 窒素分を1日に必要な量のみ施用する（窒素少量分施肥法）。
- 1日に施用する窒素の量は、生育ステージに応じ、トマトが最適葉面積を保つように調節する（多く施用すれば過繁茂となり、少ないと生育が貧弱となる）。
- 窒素以外の成分は、必要量を常時確保する。その濃度はECで監視し、制御する。
- これにより、光合成効率が高く、生産性の高い個体群が形成される。
- 栽培期間中に培養液の交換は不要である。
- 栽培終了時の培養液に窒素は残らない。

【注】 現在の養液栽培の主流であるロックウール栽培では、循環方式ではなく、余った養液は常時系外に排出されている。



窒素少量分施肥法によって養液栽培されているトマトの生育状況。

案 内 図



独立行政法人 農業技術研究機構 理事(園芸研究担当)
野菜茶業研究所(安濃)駐在 TEL:059(268)1337 FAX:059(268)1339

◎野菜茶業研究所 企画調整部／総務部／葉根菜研究部／機能解析部

〒514-2392 三重県安芸郡安濃町大字草生360

TEL : 059 (268) 1331 (代) 、 FAX : 059 (268) 1339 URL

<http://vegetea.naro.affrc.go.jp>

〔近鉄 津新町駅より、三重交通バス市場行き又は棕本行き、安濃町役場前又は荒木下車徒歩30分。駅前よりタクシーあり。〕

○つくば野菜研究拠点

〒305-8666 茨城県つくば市観音台3-1-1

TEL : 0298 (38) 8529 (代) 、 FAX : 0298 (38) 8529

〔JR常磐線 牛久駅よりバス、農林団地中央下車

○武豊野菜研究拠点

〒470-2351 愛知県知多郡武豊町字南中根40-1

TEL : 0569 (72) 1166 (代) 、 FAX : 0569 (73) 4744

〔名鉄河和線 知多武豊駅下車、徒歩10分〕

徒歩5分]

○金谷茶業研究拠点

〒428-8501 静岡県榛原郡金谷町金谷
2769

TEL : 0547 (45) 4101 (代)、FAX :
0547 (46) 2169

〔JR東海道線 金谷駅より、相良・榛原行きバ
ス、茶試前
下車〕

・盛岡隔地研究室

〒020-0123 岩手県盛岡市下厨川字鍋屋
敷92

TEL : 019 (641) 2031 (代)、FAX :
019 (641) 6315

〔JR東北本線 厨川駅より県北バス、森林総合研
究所前
下車徒歩3分〕

○枕崎茶業研究拠点

〒898-0032 鹿児島県枕崎市別府15451

TEL : 0993 (76) 2126 (代)、FAX :
0993 (76) 2264

〔JR鹿児島本線 西鹿児島駅よりバス、枕崎駅下
車、
タクシー10分〕

・久留米隔地研究室

〒839-8503 福岡県久留米市御井町1823
-1

TEL : 0942 (43) 8271 (代)、FAX :
0942 (43) 7014

〔JR鹿児島本線 久留米駅より西鉄バス、野菜試
前下車〕



野菜茶業研究所ニュース No.2 【2001年(平成13年)10月発行】

編集・発行：独立行政法人 農業技術研究機構 野菜茶業研究所

National Institute of Vegetable and Tea Science (NIVTS)

National Agricultural Research Organization (NARO)

〒514-2392 三重県安芸郡安濃町大字草生360番地

TEL 059(268)4626(情報資料課) FAX 059(268)1339 ホームページ <http://vegetea.naro.affrc.go.jp>

印刷：伊藤印刷株式会社

(40) 野菜茶業ニュース 第2号 2001

[前頁へ](#)／[トップ頁へ](#)

[to刊行物Top](#)／[to vegetea Top](#)